

久保・長江中学校区の学校再編に係る長江小学校区地域説明会議事録

1 日 時 令和5年3月30日（木） 18:00～19:50

2 場 所 長江公民館

3 出席者 地域住民 14名  
教育委員会事務局 9名

佐藤教育長、川鱒教育総務部長、小柳学校教育部長、末國庶務課長  
三浦学校経営企画課長、石本教育指導課長、石川庶務課管理係長、  
宮崎学校経営企画課企画振興係長、玉里庶務課管理係主任

4 進 行

担 当	内 容
教育長	<p>18:00～</p> <p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>皆さん、こんばんは。教育長の佐藤でございます。長江地域の皆様方には、説明会にお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、これまで地域の方から、対面での説明を早くしてもらいたいという声もいただきました。我々とすれば、まずは保護者の方々への説明を優先させていただいたということでございます。そのことにつきましては、まずもってお詫び申し上げたいと思います。</p> <p>さて、教育委員会では、昨年11月22日に議会と、関係の4小2中の育友会・PTAの役員の皆様に再編の説明会をさせていただきました。それ以降、大体ひと月に1回くらいの割合で、これまで4回だと思いますが、意見交換をさせていただくとともに、2月5日は、しまなみ交流館で、保護者の方全体を対象に説明会を行ってきたところです。その結果、一定程度の整理ができてきましたので、3月末を目途に、地域を回らせていただいて、長江地域が最後、一巡目が終わるということでございます。</p> <p>本日の説明にあたっては、11月22日に行った説明の内容とほぼ同様な内容で説明させていただいて、その後、みなさまと意見交換をさせていただきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。</p> <p>事務局自己紹介</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>それでは、はじめに資料の確認をします。</p>

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>3 資料確認</p> <p>資料の確認と内容の説明を行います。</p> <p>まず、本日のレジメが1枚目に、次に本日の説明に使用するスライドを印刷したものがございます。</p> <p>左上に資料1とある資料をご覧ください。資料1は、各小学校の今後の児童数と学級数の見込みをお示しした資料であり、令和4年11月22日に育友会・PTA役員の皆様を対象に行った説明会で、役員の皆様にもお配りしております。また、11月29日から3日間、オンラインで行いました保護者対象説明会に際して、全ての保護者の方々にお配りしております。この資料は、令和4年度は、5月1日の児童数、学級数を示しておりますけれども、令和5年度以降の入学生については、住民基本台帳の出生数に基づいて作成しており、上の段は、学校選択制度の入学者を加えない今後の見込み、下の段は、学校選択制度による入学者5人を加えた場合の今後の見込みを示しています。</p> <p>左上に資料2とある資料をご覧ください。これは、学校再編の枠組みについて、複数のパターンを検討し、統合してできる新しい学校の児童生徒数、学級数の見込みを試算したものであり、資料1と同様、11月22日に育友会・PTA役員の皆様を対象に行った説明会で役員の皆様にもお配りするとともに、11月29日からの保護者対象のオンライン説明会でも、全ての保護者の方々にお配りしております。</p> <p>右上に資料3とあるカラー刷りの資料ですが、再編してできる新しい学校と、尾道が目指す小中一貫教育校のイメージを表したパンフレットです。このパンフレットも、資料1・資料2と同様、11月22日に育友会・PTA役員の皆様を対象に行った説明会で役員の皆様にもお配りするとともに、11月29日からの保護者対象のオンライン説明会で、全ての保護者の方々にお配りしております。</p> <p>資料4は、11月29日からの保護者対象オンライン説明会に参加された方々から、アンケートでいただきましたご質問に対し、回答を行ったものです。オンライン説明会に参加いただいた保護者は合計226人、参加率は25%、提出されたアンケートの数は263通、提出率は29%、そのうち記載があったものは、187通でした。この回答は、令和5年1月10日に、全ての保護者にお配りするとともに、その回答を読まれての新たなご質問に対する回答、左側の数字の91番から103番を加え、1月24日に改めて、全ての保護者にお配りいたしました。</p> <p>なお、資料5は、アンケートでいただいたご質問を学校ごとに整理</p>
-------------------	--

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>したものです。</p> <p>最後に、資料6は、11月22日に、育友会・PTA役員の方々に再編案について説明して以降、役員の方々と月1回程度、定期的に意見交換会を実施してきましたが、その中で、教育委員会が目指している、令和7年4月統合、令和9年4月新校舎使用開始を目指す場合、どのようなことを、どのようなスケジュール感で進めていく必要があるか、ご質問があったことを受け、1月24日の意見交換会にて、これまでに統合した学校の事例を参考に、今後のスケジュールの案をお示ししたものです。内容については、この後、説明いたします。</p> <p>3 学校再編案の説明 18:10～</p> <p>それでは、久保・長江中学校区の学校再編について、説明します。教育委員会は、久保・長江中学校区の学校再編について、昨年11月22日に育友会・PTAの役員の方々に提案を行い、全ての保護者の方を対象に、11月29日から12月1日の3日間、オンライン説明会を、2月5日、しまなみ交流館にて、対面による説明会を開催しました。また、育友会・PTAの役員の方々とは、12月26日、1月24日、2月20日の3回、再編案に係る意見交換会を行っています。</p> <p>本日は、地域の方々への説明会ですが、説明が遅くなりましたことを、まずはお詫びいたします。</p> <p>それでは、スライドに沿って説明します。</p> <p>この度提案した新しい学校は、これからの尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校です。新しい学校では、「子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた、土台づくりのできる学校」を目指し、教育環境や、教育内容を整備し、尾道教育のスタンダードとして、市内小中学校の教育環境や、教育内容の充実を図っていく上でのモデルにしていきたいと考えています。</p>
<p>石川庶務課管理係長</p>	<p>本日ご説明する久保・長江中学校区の学校再編は、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の耐震化がきっかけとなっています。まずは、このことについて、振り返りを行い、状況の共有を行います。</p> <p>平成15年度から平成27年度までの取組状況です。</p> <p>当時の基本方針としては、現在地での耐震補強を掲げてまいりました。</p> <p>平成15年度に簡易的な診断を経て、3小学校ともに耐震性がないことを確認しました。</p>

平成21年度から平成24年度にかけて詳細な耐震診断を行いました。結果、3小学校ともに低強度コンクリートが存在したため耐震補強は不可と判断しました。

しかし、歴史的な建物であったため、免振工法など異なる工法を検討する中、平成25年度ごろ施工可能な耐震補強の工法が見つかり平成26年度から平成27年度にかけて設計業務を行い、久保小学校、土堂小学校は耐震補強の設計が完了、長江小学校は、山際の特別教室棟は耐震補強不可、普通教室棟は耐震補強に加え、一部取り壊しが必要であると診断ができました。

平成28年度の検討では、平成27年度の実施設計を受けて、久保小学校、土堂小学校は、現地で耐震補強、長江小学校は、山際に建つ特別教室棟は耐震補強不可のため、現地で改築+耐震補強という方針を持ち、あわせてこの先20年以上使用していくことを想定し、老朽化が著しいことから大規模改修を行う必要があると考えました。

工事施工にあたり、敷地までの進入路の狭い長江小学校への改築ができるか、敷地の狭い土堂小学校で児童が居ながらの工事ができるのか、また、久保小学校、土堂小学校校舎は築80年を経過しており、80年という文部科学省の指針を超える状況で継続的に使用ができるのか、など、課題を検討していましたが、広島市での土砂災害を受け、県内での土砂災害防止法の警戒区域、特別警戒区域の指定が進む中、当地区でも指定がありました。

尾道市では、安全面を配慮し、土砂災害防止法に基づく、特別警戒区域、警戒区域内に新たな建物は建築しない方針をもっており、まずは長江小学校での改築に支障が生じました。

結果、久保小学校、土堂小学校の方針は変わりませんが、長江小学校は敷地内での改築ができないため、別の敷地に改築せざるを得なくなりました。

検討を行う中で、別敷地での改築が必要であるが、周辺に広い土地がなく、適地が見当たらない状況が生じたところです。

また、土堂小学校についても、現在地での耐震補強において、工事中のグラウンドが確保できない状況であるため、施工が困難と判断し、平成31年2月に土堂小学校育友会へ居ながら施工が困難であることを説明しております。

それぞれの課題に対して解決策が見当たらない状況となり、次の手段を模索していたのが、平成29年度から平成30年度の状況です。そんな中、早急に安全確保を行いたいため、令和元年11月に久保小学校は、山波小学校へ、長江小学校、土堂小学校は、栗原小学校へ転

校した後、久保小学校敷地内に3小学校統合校を設立する案を提案しました。

この時点での基本方針は、現在地の耐震補強に課題が大きいことから、別の敷地での対応を検討せざるを得ない状況でした。

しかし、2度の転校は児童への負担が大きいことから関係者の反対があり、一旦、白紙撤回を行った経緯があります。

その後、関係者からの反対意見を踏まえて、令和2年度には、仮校舎への移転による安全確保を目指しています。

学校統合への理解が得られない中、統合と耐震化の問題を切り離して、まずは児童の安全確保を最優先とし、3小学校とも耐震性のない建物を未使用化とし、仮校舎への移転を検討しました。

候補地について、検討しましたが、学区内に大きな敷地はなく、久保・長江中学校をはじめ、閉校となった学校や千光寺公園グラウンドなどしかなく、仮校舎の建築を含め、中学校の敷地を利用した整備が必要となることから、今後は中学校を含めた整備を考えていることを提示し、令和2年度から3小学校に加え、久保中学校、長江中学校PTA役員とも協議を開始しております。

保護者のみなさまの合意もあり、令和3年4月に久保小学校、長江小学校がそれぞれの中学校敷地に、令和3年9月に土堂小学校が千光寺公園グラウンドの仮校舎へ移転し、安全確保が完了しました。

令和3年9月以降は、将来の学校の在り方について、検討・協議を始めております。

ここまで、これまでの経緯を振り返りました。

以上の経緯を踏まえ、尾道市教育委員会は、今後の学校の在り方について、次の3点を基本的な考え方として検討を進めてまいりました。まず、安全性の確保についてです。

学校施設を含め、公共施設は、利用者の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域内に新たな整備は行わない方針であること。従って、敷地内と、周囲の大半が土砂災害特別警戒区域にあたる、長江小学校と、土堂小学校の敷地には、新たな施設整備は行わないこと。

次に、校舎の耐久性についてです。

文部科学省は、大規模改修を行った上で、80年建物を使用することを示していますが、それ以上の建築年数が経過している場合、耐震化をしても、長期にわたり使用することは困難であるため、現在の校舎を、耐震補強して使用し続けることは行わない方針であること。従って、久保小学校と、土堂小学校の校舎は、築80年が経過しており、校舎の継続使用は行わないこと。

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>そして、適正な学校規模の確保についてです。</p> <p>尾道市教育委員会は、新たな学校施設を整備する際は、よりよい教育環境を確保するため、1学年複数学級となる学校規模での再編を行う方針としていること。久保小学校と長江小学校は、今後も全学年1学級が継続し、土堂小学校は、今後、全学年が1学級となる見込みであること。また、長江中学校も、今後全学年が1学級となる見込みであることから再編の検討が必要と判断しました。なお、山波小学校は、今後も1学年複数学級を維持する見込みであり、令和7年度での学校再編は行わないと判断しました。</p> <p>以上の考え方を踏まえ、学校再編案をお示ししました。</p> <p>久保小学校・長江小学校・土堂小学校は、1つの学校に統合します。山波小学校は、1つの学校として存続します。久保中学校と長江中学校は、1つの学校に統合します。この3つの学校は、小中一貫教育校とし、令和7年4月に開校、令和9年4月からは新しい校舎で学ぶことを目指します。</p> <p>小中一貫教育校とは、学校の組織としては、従来通り、小学校と中学校それぞれが独立した学校ですが、小学校と中学校が目指す子供像を共有し、9年間を通した教育課程を編成して、系統的な教育を行う学校をいいます。これまで小学校と中学校に分かれていた学校教育をつなぎ、義務教育9年間を通して、15歳の生徒に身につけさせたい力を実現できる環境を作ってまいります。</p> <p>久保小学校、長江小学校、土堂小学校を統合した新しい小学校は、現在の長江中学校のグラウンドに建設します。また、久保中学校と長江中学校を統合した新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンド北側に建設します。いずれも令和9年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。</p> <p>お示しした再編案とした理由についてですが、教育委員会は、平成23年12月に「尾道市小・中学校再編計画」を策定し、何より、子供たちにとってのよりよい教育環境を提供するため、複式学級を早期に解消し、1学年複数学級化を図ることといたしました。</p> <p>これに対し、各校の児童生徒数と学級数の今後の見込みは、先ほど、説明しましたお手元の資料1に記載しています。</p> <p>画面には、令和4年度、7年度、10年度のデータを映しています。なお、かっこ内の数字は、今後、学校選択制度を利用して各学年5人が入学したと想定しての合計の児童数を示しています。</p> <p>長江小学校についても、児童数は減少傾向にあり、全学年1学級が継続する見込みです。</p>
-------------------	---

久保小学校については、児童数が減少傾向にあり、全学年1学級が継続する見込みです。

土堂小学校については、今後、児童数は減少傾向にあり、今後、全学年1学級となる見込みです。また、令和10年度には、学校選択制度の利用による入学者を除く、校区から通う児童については、複式学級が生じる見込みです。

山波小学校は、当面の間、全ての学年で複数学級が維持される見込みとなっています。

また、久保中学校は、全学年で2学級規模が維持される見込みですが、長江中学校は、令和11年度には全学年1学級規模となる見込みです。

1学年複数学級のメリットについてですが、まず、クラス替えが可能となり、「人間関係の固定化につながらない」、「授業や行事などで、クラスごとに切磋琢磨できる」ということ。次に、小学校では、教科担任制による専門的な指導を実施しやすくなるということ。専科教員に加え、担任どうしで専門分野の授業を交換し、より専門性の高い授業を行うことが可能となります。また、1つの学年を、複数の教員が担当することにより、組織的な指導が可能となります。特に小学校において、複数の教員で多面的な児童理解を通じた指導を行うことが可能となります。最後に、中学校では、生徒が増えることにより、部活動の活性化につながることを期待されます。

画面には、久保小学校・長江小学校・土堂小学校を統合した新しい小学校の児童数と学級数、久保中学校と長江中学校を統合校した新しい中学校の生徒数・学級数の見込みを映しています。詳しくは、資料2の4ページに記載しています。この試算では、当面の間、小学校は2学級規模、中学校は3学級規模となり、統合による子供の学びへの効果は大きいと考えています。なお、山波小学校は、当面、2学級規模が維持される見込みです。

再編案をお示しするにあたって、その他の再編パターンについても検討いたしました。

①は、資料2の1ページにあるように、久保小学校、山波小学校、久保中学校の3つの学校の統合。

②は、資料2の2ページにあるように、長江小学校、土堂小学校、長江中学校の3つの学校の統合。

③は、資料2の3ページにあるように、4つの小学校を統合するとともに、2つの中学校が統合し、「小中一貫教育校」となるパターン。

以上の3つのパターンを検討しました。

①と③の案は、1学年は2～3学級規模となりますが、山波小学校は、当面の間、1学年複数学級を維持できる見込みであることや、施設整備が大規模かつ複雑な構造となること、②の案は、小学校に加え、中学校も全学年が1学級となる見込みであり、近い将来、第2の学校再編が必要となる可能性が高いこと、以上の理由から、現在の再編案をお示しすることといたしました。

資料3、新しい学校のイメージ図をお手元にお配りしています。

ここでは、新しい学校と、尾道が目指す小中一貫教育校のイメージをお示ししています。

小中一貫教育の導入のねらいについて、資料の一部を拡大して画面に映します。小中一貫教育の導入のねらいは、義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めることです。小中一貫教育校では、学校教育目標、目指す子ども像、育てたい資質・能力、学校のきまり等、多くの事柄が、小中共通となります。そのため、教職員は、9年間共通の指導方法で児童生徒に対応することが可能となり、児童生徒も9年間共通の授業の方法や学校のきまりで生活することができるようになります。目指す子ども像は、現段階では、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子ども」と考えています。

また、9年間を通した教育課程のイメージをお示ししています。土久保小学校と山波小学校は149年、土堂小学校は122年、長江小学校は114年の歴史があります。これまで培ってきた学校文化や伝統を、学校全体で受け継ぎ、スクールプライド、学校への愛着や誇りを醸成してまいります。ふるさと学習は、総合的な学習の時間を中心に行い、現在、各小学校で行われている、能、神楽、茶道、太鼓等の教育活動も取り入れながら、新しい中学校区の伝統や歴史からの学びを、9年間という視点で系統的に再構成し、現在の中学校区を超えて展開していきます。

また、新しい中学校区を単位として、1つの学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールを導入してまいります。コミュニティ・スクールとは、学校と保護者、地域の方々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。コミュニティ・スクールとして、地域の方の授業への参画、児童生徒への学習支援、学校と地域との合同行事等により、児童生徒の学習や体験活動の充実を図ることが期待できます。



次に、提案した建設場所について、説明いたします。

まずは、久保中学校と長江中学校の統合校について、現在の久保中学校の敷地と現在の長江中学校の敷地での比較を行い、現久保中学校敷地へ建設することとしました。理由は、グラウンド面積が、長江中学校と比較して久保中学校の方が大きく、部活動を行う中学校において適していることが挙げられます。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間生徒は、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎で学びます。

次に、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の統合校について、旧久保小学校の敷地と現在の長江中学校の敷地での比較を行い、現在の長江中学校のグラウンド東側へ建設することとしました。なお、旧土堂小学校敷地、旧長江小学校敷地への建設も検討しましたが、敷地内や周囲の大半が土砂災害特別警戒区域に該当するため、新たな施設整備は行いません。現長江中学校の敷地へ統合校を建設することの理由は、グラウンドに校舎を新築したとしても、グラウンドの基準面積を満たすこと、校舎は5階建てで、屋内運動場を校舎内に整備、また、プールは新設することとし、必要な施設が全て揃います。普通教室は可能な限り2階から3階に整備し、児童の日常生活に影響が少なくなるよう配慮してまいります。旧久保小学校へ校舎を建設する場合、校舎は5階建てで、プールを屋上に整備するとともに、体育館は既存施設を活用することで、グラウンド基準面積を満たすことはできますが、令和7年度に、現長江中学校の敷地でいったん学び、校舎新築後、令和9年度に、再度移転する必要があることから、児童の負担が大きく、好ましい状況ではないと判断いたしました。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間、児童は、現長江中学校の校舎と長江小学校の仮校舎で学びます。令和9年4月から、児童は新しい校舎で学ぶこととなりますが、令和9年度から10年度にかけて、現在の屋内体育場を解体し、プールの新築工事を行います。プールは令和11年度からの使用をめざします。

さて、先ほども説明しましたが、昨年11月29日から3日間行った保護者対象のオンライン説明会の後、アンケートによりいただいた多数のご質問に対し、資料4にあります通り、教育委員会としての回答を全ての保護者にお配りいたしました。また、回答を読まれての、新たなご質問の提出をお願いし、改めて全ての保護者に回答をお配りしました。

アンケートでは、関係する6つの全ての学校から、「通学対策・通学支援について」、また、複数の学校から、「小中一貫教育校の仕組みや教育内容について」、「新設小学校、中学校の開校時期と校舎の新築時期について」、「今後の協議方法やそのスケジュールについて」、「開校準備、校名、校歌、校章、制服等の検討について」、「統合にかかわる子供のケアについて」、ご意見やご質問をいただきました。

関係する全ての学校からいただいた「通学対策・通学支援について」についてですが、主に、長江通りの安全対策についてご心配をいただいています。

新しい小学校における安全対策は、現在の長江小学校における対策が基本となると考えています。

現在、長江小学校では、児童の約3分の2が、長江通りを徒歩で通学しています。長江通りは、午前7時30分から8時30分まで、地元住民、路線バス、バイク以外は、北側から南側への一方通行となっていますが、児童の通学の安全を確保するため、教員による登校指導や下校指導、警察を招いての交通安全学習の実施、また、通学の不安な点について、児童会役員がパワーポイントに整理して児童を指導する取組も行っています。保護者や地域の方々による見守りも行われており、長江中グラウンド交差点にて、月に1度、育友会役員の方々、また、ほぼ毎日、地域の方々や学校職員による見守り活動に取り組んでいただいています。ありがとうございます。

また、長江通りについては、これまでも、学校、保護者、地域からの、安全確保についての要望を、道路管理者である広島県や尾道警察署に伝え、対応を行っていただいているところであり、今後も、継続して連携を行ってまいります。特に、長江通りのグリーンベルトについては、令和3年度に北側から施工されていますが、それより南側は、外側線から外の幅員が狭いため、今後どのような方法で施工できるか検討を行っていただいているところです。今後、久保小学校、長江小学校、土堂小学校では、学校、保護者、地域の方々で、通学路の候補となる道路の点検を行う予定としております。

登校班による通学も、通学上の安全対策を考える上での選択肢のひとつになると考えています。現在、尾道市内の小学校では、24校中14校で登校班による通学を行っています。久保小学校、長江小学校では、登校班による通学を行っていませんが、土堂小学校と山波小学校では行っており、今後、児童の通学上の安全を確保するために、新しい小学校で登校班による通学を取り入れるかどうか、この後説明します開校準備委員会での検討事項になると考えています。

本市では、通学支援を、小学校では学校から3km以上を基準として運用していますが、新しい小学校では、通学する距離や、対象となる学年など、路線バスを活用した通学支援の可能性を含め、検討することを考えています。また、現在、久保中学校では自転車通学が認められていませんが、長江中学校では、2kmを超える生徒について認めており、新しい中学校ではどのようなあり方が相応しいのか、検討をしていく必要があると考えています。

なお、2月5日の保護者説明会では、ランドセルの重さについてのご指摘をいただきました。

これまでも教育委員会では、児童の身体の健やかな発達に配慮し、平成30年以降、荷物の軽量化に向けて持ち物を見直すよう、取組を進めており、各学校では、家庭学習での必要性や学校での使用頻度に応じて、学校に置いて帰る物と自宅に持ち帰る物のリストを作成し、重量は3分の2以下になっていると認識しています。新しい小学校においても、こうした取組を継続し、児童の負担をできるだけ軽減していきたいと考えています。

最後に、今後のスケジュールについて説明します。お手元の資料6をごらんください。

この資料は、育友会・PTA役員との意見交換会にて、令和7年4月の開校、令和9年4月の新校舎使用開始を目指す場合、どのようなことを、どのようなスケジュールで進めていく必要があるか、ご質問があったことを受け、お示ししたものです。進捗の状況によっては、幾らか変更があるかも知れません。おおよそのスケジュールであることをご了解ください。

まず、資料の一番上の枠「児童・生徒」の欄ですが、統合1年前より、関係する6つの学校で、交流事業を実施してまいります。また、久保中学校は令和6年度末に閉校式、令和7年4月から、統合中学校へ通学します。そして、令和8年度末には中学校の新校舎が完成し、令和9年4月から新校舎での学習を開始します。

次に、教育委員会は、令和7年4月開校、令和9年4月新校舎使用開始とするためには、令和5年の9月議会で、校舎の設計等に係わる補正予算の議決を、議会にお願いする必要があります。また、令和7年4月より新校舎を建設、令和9年4月以降、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎の解体、長江中学校屋内運動場の解体等を行う予定としています。

次に、教育委員会と学校は、統合の方向性が決まりましたら、学校教育目標や、9年間を通した教育課程等、小中一貫教育校の柱となる

	<p>部分について、具体的に検討を行ってまいります。</p> <p>次に、開校準備委員会、これは、教育委員会、学校、保護者、地域がひとつになって、統合に向けた様々な課題について検討していく組織ですが、統合の方向性が決まった後、できるだけ早期に設置します。検討を行うのは、校名、校章、校歌、通学方法、通学路の安全確保のための対策、制服、体操服、通学かばん等の学校規定品、PTA組織、開校式等についてです。これまでに統合した学校では、課題ごとに部会を設け、検討を行っています。</p> <p>次に、閉校事業実行委員会については、現在の学校ごとに、地域、保護者、教育委員会、学校で、閉校事業について検討していきます。過去の例では、市が財政的な支援を行いながら、閉校式の実施、記念誌の作成などを行われています。</p> <p>最後に、学校運営協議会についてですが、先ほども説明しました通り、中学校区を単位として、1つの学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとすることを計画しています。</p> <p>長くなりましたが、以上で説明を終わります。</p> <p>この後、ご意見やご質問をお受けいたします。宜しく願いいたします。</p> <p>4 質疑応答 18:46～</p> <p>教育委員会事務局の説明に対して、質疑を受けたいと思います。質問のある方は、挙手をしてください。質問はありませんか。</p> <p>住民1</p> <p>長江中学校での敷地の工事の件だが、現在のグラウンドの東側に校舎を建てるという計画ということで、ほぼその工事期間が2年間となっている。その間、長江小学校、長江中学校の2校については、グラウンドが使用できないかと思う。工事車両の出入りもあるので、その2年間は、どのように体育の授業であるとか、運動であるとかは行うようになるのか。</p> <p>石川庶務課管理係長</p> <p>画面を見ながらということになるが、指を差しながら、説明する。(スライド画面を指差しながら説明。)この建物を工事するときに、まず子供たちは、それぞれ×を打っているが、こちら側の今の長江中学校の建物に入って学びを行う。</p> <p>工事エリアについては、ここを仮囲い、よく工事の時に高い壁がつくられると思うが、ここは使えない状態にして工事を進めるが、こちらのグラウンドは使える状態で運用する。そして、子供たちは、授業は、こ</p>
--	---

	<p>ちら、体育のときには、今と同じ歩道橋を渡って、体育館は、まだそのままあるので、そのまま継続して使用。そして体育館の前を通過して、ここのグラウンドは、使える見込みで工事を進めるので、そういう意味で体育はグラウンドで、そして学びは校舎で、体育館は体育館でという形で、今工事を進めるというような想定をしている。</p>
住民 1	<p>現在でも、グラウンドの中にテニスのコートが入っている。テニスのコートを取る場所がない状態である。今、現状でも。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>そのことについては、今、中学生が小学生と共にいるので、中学校のテニス部のためのテニスコートである。工事をするときには、統合という形で、令和7年度には、こちらは久保小学校と長江小学校と土堂小学校の統合小学校と言う形にさせていただく。</p> <p>その場合には、クラブ活動は、ここでは必要無くなるので、テニスコートの部分は小学校のグラウンドということで活用できるので、工事が可能になる。また、令和7年度に校舎の工事を行う前に、長江中学校は、久保中学校と一緒にになるので、そちらでクラブ活動を行う。</p>
住民 2	<p>今ずっと聞いていると、これはもう3小2中学校統合ありきということで説明があったように思うが。教育委員会としてやっぱりその考えなのか。</p> <p>今後、他の方法で、当初考えておられた、耐震化については全く考える余地がないと。例えば、今聞いていると、工事車両が入らないとのだが、長江小学校においても入らないことはなく、大規模改築をやった時には入っている。今の状況で。土堂小学校にしてもあれだけの広さがあったら、入れないことはないとは私は考える。他にも統合ありきの、例えば、危険特別地域があるとか、これについても、擁壁を造れば解決できるのではないかと。レッドゾーンやイエローゾーンがあるからいけないとかいうことを言われていたけれども、長江の説明会で説明があったときには、レッドゾーンでも擁壁を造れば使えますという県土木の説明があったが、そういうふうな考えはないのか。</p>
川鱈教育総務部 長	<p>最初に経緯を説明させていただいた。</p> <p>当初は、耐震化という視点から学校を何とか耐震ができないかということで、検討してきた。ただ、その後、土砂法ということで特別警戒区域、今、ご紹介あったような、そういった指定も受けるようになった。そういった状況の中で、さらに、適正な学校規模の確保、やはり子</p>

<p>住民 2</p>	<p>供たちが学びの場として、子供たちが減る中で、複数学級で、適正規模で学んだ方がいいのではないかという視点も加える中で、今我々が提案するような、中学校も含んだ上での再編統合案ということを教育委員会として選択したということである。</p> <p>今、適正な人員の確保、児童数の確保と言われたけれども、学校選択制、これを、この3校については、一時無くした。それから後に5人というふうな枠を作りましたね。それ以前は、土堂小学校の場合でも40人が入っていたが、それでも抽選が行われていた。長江に対しても抽選会があったぐらい、よその地域からも来たいというふうな要望があったが、そういうことについては、全く考えなかったのか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>学校選択制度については、本市においては平成16年度の入学児童生徒から導入をしている。当初は、土堂小学校40名枠、長江中学校40名枠ということで、制度として、スタートをしてきたけれども、やはり、様々なご意見をいただく中で、平成30年度に学校選択制度のあり方については、見直しをさせていただいた。</p> <p>その後、この見直しによって、やはりどの学校も、共通的な人数の受け入れ枠にした方がいいだろうということで、これは大学の先生等にも入っていただいて、市民の皆さんや保護者の皆様にもアンケートを調査させていただいた上で考えさせていただいて、各学校最大10名枠ということで、市内的には、統一をさせていただいている。</p> <p>ただ、この3小学校については、やはり耐震化されていないということで、仮校舎に移る前だが、一旦、学校選択制度を休止させていただいた経緯がある。</p> <p>その後、仮校舎に移転をし、耐震性が確保されたということで、今年度実施から、5名枠で、3小学校で実施をさせていただいた。5名枠とした理由というのは、今後の学校再編等シミュレーションを行ったときに、複数学級の維持が、2学級規模が維持できる人数ということで、各学校を5名枠にさせていただいた。</p> <p>これについては、私たちが検討した結果については、議会に説明させていただいたし、保護者の皆様にもお集まりいただいてご説明をさせていただいて、今年度から、復活はさせていただいたという経緯がある。</p>
<p>住民 2</p>	<p>今、様々なご意見を聞いて、と説明された。様々な形のご意見というのはどういう意見か。主だったのがあれば。我々に分かりやすいように</p>

<p>小柳学校教育部長</p>	<p>説明してほしい。</p> <p>学校選択制度の見直しに至った経緯については、土堂小学校に40名入るということで、他の学校に行く予定だった児童が、土堂小学校を希望されて行かれるということで、人数の少なくなる地域からすると地域コミュニティが保てない、崩壊するのではないかというような声もいただいたし、土堂小学校においては、本来、地元にいる子供さんは、1学級規模だけども、40名が加わることによって複数学級になっていた。この複数学級が30人以下学級になっていたことが多くて、ここだけ特別に少人数学級が行われているのではないかというようなご意見もいただいた。</p> <p>そういった中でやはり適正に、学校選択制度を実施していくためには、どのような方法がいいのかということで、平成30年度に検討させていただいたということである。</p>
<p>住民2</p>	<p>なぜ土堂小学校、長江小学校が学校選択制でたくさん人が来たかという、やはり、もう私は単純に考えて学力が高いから。どの保護者でもやはり学力の高いところへ行かせたいという思いがあったから、来たのではないか。そうは考えていないのか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>学校選択制度というのは、保護者の皆様が、学校の特色を理解されて、選択をされていく制度だと思う。それが、学力が高いというふうに見られるのか、それとも地域との連携とか様々な学校の状況を見られて、判断されているということだと思う。</p> <p>私たちがこういう見直しをさせていただいたというのも、やはり義務教育であるから、どの学校に行っても、やはり力をつけられるような環境を整えていかなければいけない、教育の公平性ということだと思うが、まずはベースにそういったものをして、やっぱり各学校が特色を出していく、こういった教育を目指していきたいということを考えて、学校選択制を今のような状況にさせていただいている。</p>
<p>住民2</p>	<p>それと別の質問だが、例えば、長江中学校、久保中学校の校舎を全部取り払って、全部新しく造るというふうに説明があった。しかも、それは64億円の予定であるということも新聞等に出ていたけれども、今ある校舎を、耐震化ができていない校舎を、使おうという発想はなかったのか。</p>

末國庶務課長	<p>今ある校舎ということだが、基本的には、土堂小学校についても、久保小学校にいても、長江小学校についても、今現在、耐震化は当然できていない。それで、それらの学校を例えば、それぞれ耐震化、例えば改修したり、建て替えたりということを考えれば、当然、先ほど64億という数字があったけれども、1校に20億円ぐらい。今の費用でだいたい1校に20億円ぐらい。それが物価高騰で1.8倍ぐらいになるのではないかということで試算させていただいた数字であるが、それが複数校ということになりますと当然費用がたくさんかかってくる。</p>
住民2	<p>それを聞いているんじゃない。今計画されているような長江中学校へ小学校建てるその校舎。あるいは、久保中学校へ建てる中学校の校舎。これは現在ある校舎を使って、ちょっと直すとかして使うわけにいかなかったのかと。今64億というのが1人歩きしているし、非常に大きい金額でこれなど単純計算すると、尾道の一般財政の10分の1を使うわけだから。もっと他の方法がなかったのかと。</p>
末國庶務課長	<p>まず、最初に小学校の方から説明させていただくと、耐震性がない3つの小学校を、一つの学校に統合させていただくというような形になる。またそれぞれ耐震性がない校舎であるため、それぞれの学校、本来でもまず我々は、当然以前は、耐震化をどんどん進めていきたいということで進めてきたわけであるけれども・・・。</p>
石川庶務課管理係長	<p>ちょっとすみません。補足でお答えする。今のご質問は既存の校舎を引き続き使って、新校舎を建てない、そのような考えはないだろうかということだろうと思います。</p> <p>今の我々が新校舎に至った考え方をご説明する。校舎は、今まで、鉄筋コンクリートの校舎というものは、昭和の時代に建てて、基本的に40年から50年サイクルで建て替えるというのが、多分昭和の頃の考え方だと思う。現在、文部科学省においては、50年で建て替えるのではなくて、1回改修をかけて、80年で建て替えるような形で、建て替えるタイミングを、昭和に建てた建物を一斉に建て替えるのではなくて、建て替えるところもあれば、改修を続けて80年使ってという、コストの平準化というところもあるが、そういう趣旨から長寿命化というような考え方を持っている。今の長江中学校、そして久保中学校の建物というのがちょうど40年、50年経ってきた建物となっている。この再編に当たって、継続して改修して80年まで使うのか。建て替えを行うのかというのを考えたときに、やはり、今後、長い期間使う建物</p>



	<p>であろうと、当然継続して使えば30年後に建て替えというものが必要になってくる。タイミングとして、今この2つの学校の校舎を新築するのか、改修で使うのかというのを選択するとなったときに、やはり教育環境の整備も踏まえて、新築する方が好ましいのではないかと考えたところである。</p>
住民2	<p>好ましいというのは、それだけの金額をかけてやる方がいいというふうな考えか。</p>
川鱈教育総務部長	<p>例えば、この長江中学校で考えると、今の校舎を仮に大規模改修したといっても、先ほど説明したように20年後、30年後にはまた建て替えなきゃいけない。また、そういう時代になる。今、(画面の)左上のグラウンド側に建てることによって、×がついている現校舎の部分というのは、今度は学校ではなくなるので、地域のためにどうやって使っていくかというのは、非常に地域にとって大きな財産になるではないか、ということも考えた。今の校舎を改築するということは、いわゆる学校として、小学校としては大きすぎる。それをずっと今後20年、30年間キープしていくのかということも含めていろんなことを考えた中で、いわゆるダウンサイジングできるものはダウンサイジングして、現校舎の部分、これを有効活用するというのも合わせて考える中で、出した結論というか、施設整備であるとお考えいただければと思う。</p>
住民2	<p>今、地域のための学校ということを言われたけれど、やられるんだしたら、周回道路の擁壁も当然修理されるのですね。分かりますか。学校の校内でがけ崩れとかあったあの辺りの擁壁を直していくということも当然視野に、地域のためにも考えていただけるということか。</p>
末國庶務課長	<p>学校の裏側ですね。今崩れて擁壁で止めている、学校敷地を守っているような状況になっている箇所のだが、こちらについて、崩れている場所が市の所有している土地ではないということである。市で管理している土地ではないので、その土地を直すということが非常に難しく、いろいろお話ししているが、最終的には、今できないというのが、今のところの結論である。</p>
住民2	<p>ということは崩れてもいいと。ほっとけという考えか。そういう今、交渉されたと言われたけれども、持っている方を知っているが、そういうことは言われてなかった。だから、今、私が言ったのは、もちろんそ</p>

<p>末國庶務課長</p>	<p>の周りの、あそこだけじゃなくて、他のところも特別警戒地域になるところもあるかと思う。それも、この際やるんだったらやっていただきたい。やるんだったらその周回に住んでる方に対して、高齢化も進んでいるので、緊急車両が入れるようなその拡張工事も同時にやっていただけないかと。やるんだったらね。そういう考えはないか。</p> <p>はい。ちょっと今のところ、ご指摘いただいている場所については、個人の土地を市役所が代わりに直してあげるといようなことは、なかなかできないので、市役所の土地で、安全を確保していくといような対応をとらせていただいているところである。</p>
<p>住民2</p>	<p>そういう持っている方と交渉しようという考えはないということか。崩れたところね。そこを持っている地主の方と譲渡していただくための交渉はやろうという考えはないのか。となるとあそこは危険地域に入っているわけだから。危険地域があるところは校舎を建てないと言っておられるけども、離れているからいいんだと言えそうかも分からないけどもね。それは疑問を感じるということになりませんか。</p> <p>地域として、やられるのだったらそういうことも視野に入れていただきたい。もちろん学校が、今部長が言われたように、その地域の宝として。もちろん避難所になっている。今、中学校は。そういうふうなところに使っていただければいいと。愛着を持ってもらっていいということと言われたが。やるのだったらその周りも。なるほど、良くやってくれたというふうにやっていただきたいと。</p> <p>地域としての要望になるが、それはどこかへ含んでいただいて、やれるのだったら、そんなことも、ぜひやっていただきたいと思う。</p> <p>それとどうしても今一番問題になっているのは、安心安全な通学路の確保、これはグリーンベルトを引いているから安心だというふうに土堂の時にも説明があったけれども、私の家のちょっと上まで行っているけれども、決して安全ではない。どういう意図で安心安全と言われたのか分からないけども。</p> <p>長江通りに通学路を作るというのは本当に、誰が考えても困難だと思う。大変困難です。私たち、町内の人もグリーンの服を着て、子供たちの登下校を見守ることをしているけれども、これはもう責任を持っているものじゃありません。私たちは、グリーンの服を着て立っていることによって、防犯に繋がるということも考えてやっている。もちろん子供の見守りをするけども。事故が起きても、もちろんその責任があるわけではないということを考えていただいておかないと。地域でグリ</p>

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>一の衣着てちゃんと見守ってくれてるから安心だというふうなことでされたら、ちょっとそれは困るというふうに、思うが、いかがか。</p> <p>長江通りの安全安心ということで、今ご不安に思っでご指摘いただいている通りだと思う。我々も長江通りを通学路として使用することに対して、現状でも本当に心から安心であるというふうに言うつもりはないし、何より対策を検討していくという認識を持っている。グリーンベルトについては、あれがあるから安心ということではなくて、現状よりも改善をしていくという視点で、県の方等、さらなる延長についてどのような方法ができるか検討していただいているところであるし、今後あそこは道路の管理は県が行っているの、県の方とも、どのような方法があるのか、また検討していただいたり、今後、開校準備委員会の中でも、地域の方や保護者の方々の声を聞きながら、対策について、考えていきたいと考えている。</p>
<p>住民2</p>	<p>検討するんじゃなくて、学校ができる前に、こうしてこうだから安心安全ですよ。例えば、長江通りに、電柱が道路の際まで出ている。それを危ないと思えば地中化というのも、高くつくけれども、この64億あったら十分できないかと思うし、そういうことも検討の一つに入れるという考えはないか。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>電柱の地中化について、今すぐ、ここでそうしたいとか、そうできないとか言う結論は申し上げられないが、もちろん電柱がなければ道が広がって歩くところが確保されるのではないかというご意見もあつたり、反面、電柱があるがゆえに、速度を車が落としてより気を付けながら運転するという声をいただくこともある。そういったいろんな声を聞きながら、できる限りの検討していきたいと思う。</p>
<p>住民2</p>	<p>できる限りじゃなくて、これが一番問題になっているので。できる前に必ずこういうふうにしてやって安心安全な通学を確保しましたということ、どの地域の皆さんにも報告しなかったら、なかなか納得できないのじゃないかと思えますけどね。とにかくあれだけの幅しかないのですから、雨が降った日などは大変。ご覧になったかどうか分からないけど、小学校低学年の子供たちは非常に危険である。車と接触する。電信柱があるからスピードを出さないということはない。飛ばす人は飛ばすから。だからそれはやはり、概念的なことで計画されるのではなくて、いろんな実地検証などされながら、どうあったらいいかということ</p>

	<p>を真剣に考えてもらって、その学校ができるまでに何とかこういう形でやりますということ、それぞれの地域へお知らせいただかないと、なかなかこの問題、ここ一番のネックだから、大変だろうと思いますけども、そこを真剣に考えていただかないと検討じゃ駄目ですね。真剣にそれを作っていくと。いうようなとこまでね、お願いしなきゃいけないと思っている。</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>他に質問がございますでしょうか。</p>
住民3	<p>すいません、今の長江の小学校の校舎の今後の説明はなかったように思うが。今後の見通し、この校舎はどうするのか。そこら辺が分かっていたら教えてもらいたいと思う。</p>
末國庶務課長	<p>長江小学校の校舎は、当然、耐震性がない状態ですので基本的には立ち入りをしていただかない、使用しないというのが、大前提になる。それで、今後、この校舎をどうしていくのか、解体してしまうのか、どうするのかというところについては、まだ方針は決定できておりませんので、またそういった具体的な方向性をお示しできるようになれば、またお知らせしていくというようなことになる。申し訳ございません。今の段階ではまだ決まっていないというところである。</p>
住民2	<p>今の問題、例えば長江小学校の東館これはアイ・ピー・エスじゃないけど耐震化率というか。0.08というのはご存知ですね。市役所は0.24で建て替えた。今までずっとほっといて、さすがにもう0.08だからいつ崩れてもおかしくないから、早急に撤去されるのだろうと思ったけども、一向にその気配はない。崩れるのを待っているわけか。</p>
末國学校経営企画課長	<p>もちろん、崩れるのを待っているということではないが、こちらについても、話がいろいろ二転三転している中で、なかなか方針をお示しできてないというのが、実情である。ご指摘のように、そういった部分については、早く対応できるところからすべきだというようなご意見については、承りましたので、そういったことについても、今後検討させていただければと思う。</p>
住民2	<p>だから全く無視をしているわけでない。だからこれから検討する</p>

	<p>ということですね。今までしてなかったけども、これからすると。ちょっと遅いが、まだ壊れてないから。そういう危険がものすごく大きいので。0.08ですからね。市役所は0.24。危ないと言ったのが。そこらもしっかり考えてもらわないと。私たちは、やっぱり市役所の建て替えをする前に、小中学校の耐震化をとお願ひしたら、先に市役所を建て替えさせてくれと。終わったらすぐ耐震化がありますからと。それが、こういう結果になっているわけですからね。それはしっかりと頭に入れといていただきたいと思いますね。</p>
<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>ほかに質問はございますか。</p>
<p>住民4</p>	<p>すいません、確認だが、先ほどの中学校のスライドだが、中学校の方には小学生が全員いくことでよろしいのか。この敷地、工事をしているときにはもう、小学校は全部こちらに行っているのか。</p>
<p>石川庶務課管理係長</p>	<p>はい。スケジュールということで再度整理すれば、令和7年4月に統合させていただくプランになっているので、3つの小学校の子供たちがここに集まり、2年間は長江中学校の今の校舎で学んで、令和9年4月から新校舎に入るとのことだ。</p>
<p>住民4</p>	<p>令和5年から、全ての小学生がそちらに行くということか。</p>
<p>石川庶務課管理係長</p>	<p>令和7年だ。（スライドを指しながら）ここです。令和7年に長江中学校の敷地で、統合した学校をスタートするということだ。</p>
<p>住民4</p>	<p>そうしたら、建て替えている時、新校舎ができる5階建てですかね。出来るときにはまだ小学校に、長江中學生がいるということか。</p>
<p>石川庶務課管理係長</p>	<p>中学生はもういない。 中学生は久保中学校の方に行きます。令和7年4月に中学生は久保中学校の方へ統合します。ですからもういません。令和7年の状態は、3つの学校の小学生のみ。同時に統合を行う。令和7年4月に、中学校は久保中学校、小学校は長江中学の敷地に、同時に行います。</p>
<p>住民4</p>	<p>その校舎ができていないんですよ。</p>

石川庶務課管理 係長	<p>実は、さっきの、ちゃんとグラウンドは取れるのかなっていうのが1つのポイントになってるとこもあり、中学生がいるままだと、確かに先ほどおしゃいましたテニスコートが必要となります。テニスコートがあるままで、小学生も中学生もその場で学習できるのかといえば、当然、難しい。そういう意味で、何とかその工事ができるような形を検討する中で、まずは、統合させていただいて、統合した後に工事を行うということで、実際の新築工事ができるというようなことで・・・。</p>
住民4	<p>令和5年に仮校舎へ通学だから、そのときはもう全部、久保、長江、土堂が全部そちらへ行くのか。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>令和5年は、現在のままだ。土堂は千光寺公園グラウンド、長江は長江中学校、久保は久保中学校・・・。</p>
住民4	<p>令和7年度から工事が始まって、そのときは全部変わるということ。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>そうですね一斉に変わる。</p>
住民4	<p>分かりました。それと、あと1点だが、地上5階建てを建てられて、地域の方の、日当たりとかそういうのはどういうふうになるのか。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>そのあたり検討しているが、ちょっと詳しい者に変わります。</p>
玉里庶務課管理 係主任	<p>そうですね。高さの制限というのはもちろん、建築基準法で規定されているので、それを超えてというのはできなくはないが、基本的には超えないところになる。(スライドを指しながら)日当たりの面でいきますと、基本的に影ができるのはこの辺に、長い影というか、日影の時間が長いのがこの辺に出てくるので。北側というか、北西側というか。こちらに影が落ちるのだが、影響がないと言えれば言い過ぎだが、少ないというか日照権とかその辺の法律的なところは、もちろんクリアしている。それを超えてまでの高層の建物ではないというのが今の試算になっている。</p>
住民5	<p>千光寺に上がる道までいくのか。</p>

玉里庶務課管理 係主任	千光寺に上がる道はここです。
住民 5	今、グラウンドにここから入っていますよね。そこまでやるのか。
玉里庶務課管理 係主任	そこをやってしまうと、入れなくなってしまうので。その辺は、まず全然設計に入っていない。もちろん学校として成り立つような形状として、設計は行います。
住民 5	体育館は。
玉里庶務課管理 係主任	体育館は、体育館付きの校舎を先に建てるので、できてから、体育館を壊すという流れになる。
教育委員会事務 局（司会）	次の方どうぞ。
住民 6	学区の件だが、日比崎などは相当人数が多い学校だと思う。そこから越境での人数の確保というのは無理なのか。特に土堂地区。日比崎は相当、児童数が多いかと思うが。
小柳学校教育部 長	土堂の保護者や地域の方からですね、よくいただくご意見で、学区の見直しをしたらどうかということだが、現在の日比崎小学校の状況は、近年では平成 25 年度が 673 人ということで、ここがピークであった。今年度も、あとわずかで終わるが、令和 4 年度は 493 人。かなりのスピードで減少している。これが令和 10 年度の見込みでは、400 人を切って、もう 396 人の見込みである。減少している地域から、地域を切り取って、今の土堂地区に入れるという考えは、当然今、日比崎小学校卒業されている方、それから、今地域で日比崎小学校に関わっている方々からすると、やはり耐えられないことではないかと思う。私たちとしては今のところは学区の見直しは考えていないとご説明させていただいている。
住民 6	あともう 1 つ、教育関係のことでよろしいか。先ほど、新しい小中一貫の教育方針の「資料 3」というのを説明なさったが、まさしくこれは今までの土堂小学校であるとか、長江小学校がしてきた教育方針だったのかと思うが、それを他の学校と比べて、ちょっといけなかったので

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>はないかというふうに聞こえた。そうすると、学校選択制を止める必要はなかったのじゃないかなと思ったりするが。</p> <p>教育内容についてのご質問だが、土堂小学校にしても、長江小学校にしても、久保小学校にしても、それぞれ本当に素晴らしい教育活動を続けてこられた。本当に、尾道市の財産ともいえるべき取組を各校ができて、それを否定するつもりは毛頭ない。むしろ統合した暁には、3校の良さというものを引き継ぎながらさらに発展させていきたいというふうに思っている。小中一貫教育校が従来の学校と何が違うかということ、ちょっともう少し詳しく説明すると、よく誤解をいただくことがあるが、小と中がくっつくわけではない。小学校は小学校、中学校は中学校という独立した学校のままでやるというのは現在と変わるところはないのだが、分かりやすく言うと、中身というか、ソフトの部分、今は、小学校は、小学校でこんな子供を育てたい、そのためにどんな教育をやるかっていうと考える。中学校は中学校で、3年間でこんな子供を育てていこうと考えていて、極端に言うと、統一感がない。そうではなくて、通うのは同じ子供であるから、やはり地域の子供として、15歳になったときにどんな姿になって欲しいというのを、小学校の先生も中学校の先生も同じ認識を持つべきだろうと。それであれば、教育内容も、今ちょっと画面の方にこういうふうに、これは仮のものだが、9年間を通して、同じ教育課程、同じ教育方針、もちろん、年齢が違えばやり方が、若干発達段階において違うわけだが、先生方が日頃からこういうことを、常に話をしながら組み立てていく、これが小中一貫教育校の一番のポイントになると思う。この具体的な中身については、今、長江小さんがやられているようなこととかを取り入れながらやっていきたい。それを小中で発展させていきたい。そういうことだ。</p>
<p>住民6</p>	<p>それは、ずっとやっていることではないか。どこの小中学校でもやっていることではないか。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>もしそのように言っていただけるのであれば、今の尾道市の小学校と中学校がしっかり手を携えながらやっているというふうに感じていただいているというふうに捉えることができるけれども。尾道市でもこれまでも、小学校と中学校が連携をしながらやっていきたいと思います。それを1つの仕組みとして作るということだ。今は小学校の先生と中学校の先生が自発的と言うとおかしいが、意識をしてやっている状態だが、小中一貫教育校という仕組みをつ</p>



<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>くることで、よりそれがやりやすくなるというようなイメージを持っていただけたらというふうに思う。</p> <p>広島県内で小中一貫教育校の仕組みを作っている学校、一番有名なところでは府中市がされている。それから、呉市がこの仕組みを取り入れて、は全ての学校でやっている。呉の場合は施設の中に小と中が両方入っているパターン、施設は別だけど1つの学園としてやっているところがある。そういった所を我々も訪問して、いくつか事例を研究して知っているわけだが、1つの学園としての一体感を醸成するために、例えば体操服であるとかそういったものを揃えてやったりとかいうこともあるし、どこまでできるかというのは明言できないが、中学校の先生と小学校の先生が乗り入れをしながら、小学校を卒業しても中学校に入って見守るとか、今言ったことをされたりとか、また逆に中学校の先生は専門的な授業をしますので、そういったものを小学校でもやっていったりとか。そういったことをする中で、小学校の中で教科担任制をより実施をしているんな取り組みができるようになる。</p> <p>また行事についても、行事によるけれども、合同行事であったりとか、共に活動していくといったようなことをも可能になるというような利点が考えられる。</p>
<p>住民2</p>	<p>全く別な質問だが、この3校、あるいは4小学校一緒になって、中学校と一緒にしているが、各学校が今まで培ってきた。文化、伝統、歴史、これについてはどういうふうに考えているか。</p>
<p>三浦学校経営企画課</p>	<p>先ほどもご説明をさせていただいたが、それぞれの学校が非常に長い歴史をもっている。その中でそれぞれの地域が、本当に地域の方々に支えられながら、文化であるとか、その地域の歴史を大事にしながら学習をされてきた。ということで、当然新しい学校になったからといって、この地域というものを除外したような教育活動を組んでいくということは考えていない。今各地域が作ってきたものを、例えば総合的な学習の中で、土堂には土堂の歴史、長江には長江の歴史や文化、久保には久保の歴史や文化がある、これを広げる形というか、学習をしながら、さらに、地域に対する愛着心を醸成するなどといったことは、もう当然積極的にやっていきたいというふうに考えている。</p>
<p>住民2</p>	<p>ということは3校が一緒になっても、土堂から来た人は、土堂のベッチャー太鼓をやれと 長江の人は長江の篠笛をやれということじゃないのか。みんながやるのか。みんな一緒に。</p>

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>いろんなパターンがあると思うが、一緒の学校になって土堂の子は太鼓だけだよとかというようなことはちょっと違うと思っている。お互いの文化を認め合うとか、あそこに、こういう文化があるのでやってみようとか、そういうのを大事にしていきたいと。その中で自分たちの生まれた地域、長江の地域で、隣接する地域に対する理解であるとか、愛着を増していうふうに考えている。</p>
<p>住民2</p>	<p>今学校では、それぞれ歴史、文化、伝統をしっかりと大事にせよと言いながら、それが今度、バラバラになるわけだから。今、教育委員会では頭の中では、統合して良いところとっていくというふうに言われたけれども、それが可能と思われているか。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>可能であるというふうに考えている。</p>
<p>住民2</p>	<p>例えば、私たちが関わっている祭がある。長江の天神さんの祭。ああいうのをやる時も、今まで長江小学校の子供たちに、宵の宮のくじの券をあげていたけども、今度、久保小の子にもあげるのか、あるいは土堂小の子にあげるのか、ということも考えていかなきゃいけない。もちろん久保の祭に対してもあるわけだから、そういうのを全員に配るのかどうか。この細かいけども、そういう、文化を統一的にやるというのは、非常に難しいと思う。そこらも、やはり子供たちを抱える親としては、今まであった文化はどうなのだろうかと。その地域を愛せよと。学校を愛せよと言われたことが、今度、幅が広がるわけなので。どの地域を愛するようになるのか。また、その教育も難しくないかと思っているが、そこらもしっかり考えて説明いただくと。</p> <p>それと、この地域説明会は、もうこれで終わりですか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>地域説明会は、この3月25日土曜日、土堂地域を皮切りに、火曜日には久保地域、昨日には山波地域、今日は長江地域に来させていただいた。この4地域でいただいた意見でありますとか、質疑の中身を、また検討させていただくとともに、保護者と意見交換会をしているが、その中で地域説明会の様子もお話をさせていただき、今後の保護者等のやりとり、地域とのやりとりについては検討させていただきたいと思っている。</p>

住民 2	<p>検討ということは、まだ分からないということか。となるとまだ地域の人も長江に限らず、土堂、久保、山波も。もううちはいいよ、というところがあるか分からないけども、求められたらやっぱりしていかなくてはならないのではないか思うけれども。それについてはどうか。</p>
小柳学校教育部長	<p>今回、この地域説明会を開催するにあたって、地域の窓口の方と、うちの事務局の職員が連携をさせていただいて、ここの長江地域でやらせていただくということになった。だから、私たちの考えだけではなくて、地域の窓口になられている方とも連携をとらせていただきながら、地域の声を拾って、開催するかどうかということは、地域ごとに、やっぱり考えていかなければいけないと思っている。</p>
住民 2	<p>いずれにしても、子供たちの家を出てから、学校に行って帰るまで、その子供たちのことを第一義に考えて、この計画をやるのだったら進めていただきたい。そうでないのだったら、できないのだったらやっぱりそれなりにまた考えていくというふうな、柔軟な考えを持ってやるという考えはないか。</p>
小柳学校教育部長	<p>今回、このような学校再編案について提案をさせていただいた。これは私たち、教育委員会とすれば、やはり子供たちの教育環境を整えるというところを大前提として考えた結果、このような提案をさせていただいているので、今後も、この私たちの提案について、当然子供たちのことを、一番に考えてしているので、市民の皆様また地域、保護者の皆様にご理解していただくように、こういった機会を利用して説明をさせていただくことが一番大切だと思っている。</p>
住民 2	<p>今ご理解と言われたが、本当にこれは納得できたというのが理解だから、そこまでしっかり、考えていただきたい。それできないのだったらやっぱり、それなりなことを考えていかなきゃいけないということが、やっぱり求められるのではないのでしょうかね。だから中途半端のままやっていただくということは避けていただきたいということをしつかりお願いしておく。</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>他に質問がございますでしょうか。</p>
住民 5	<p>すいません、ちょっと細かいことだが、さっきの改修工事等のスケジ</p>

	<p>ユールのところ、令和7年から3小学校が、現在の長江中学校の現存している旧校舎を利用して統合されるということだが、これは各3小学校の生徒があそこへ行って、それぞれの土堂学級、長江学級みたいな感じになるのか。それとも一度全部足して、シャッフルした複数学級になるのか。どういうプランを立てられているのか。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>令和7年度に今の長江中学校に、小学生が集まってくるということになるが、この時点での統合を提案させていただいている。統合なので、この教室は土堂の子とかいうことではなくて、そこから一つの学校になるというイメージを持っていただければと思う。</p>
<p>住民5</p>	<p>現在、他のことは別にして、プールの授業に関して、各仮校舎に行っている子供たちは、それぞれ元の学校のプールにそのときだけ通って夏の時間、プール授業を受けているが。ここについては、新しい長江中学校のところでできるプールが、またもう2年ほど延びるから、4年間プール事業はどうされるか。プランができていますか。</p>
<p>石川庶務課管理係長</p>	<p>プールについては、現在、長江小学校は、の元の長江小学校のプールを使っている。新しいプールができるまでは、その体制を維持して、長江小学校のプールを使うというような想定で今考えている。</p>
<p>住民5</p>	<p>3小学校の子が全部、長江小学校のプールを使う事でよろしいか。もう旧久保小学校のプールと千光寺のプールは使用しないということでもよろしいか。</p>
<p>石川庶務課管理係長</p>	<p>そういうことになる。</p>
<p>住民5</p>	<p>ありがとうございます。それと、土堂地域説明会等々と保護者への説明がされていたようだが、こういう言い方をするとあれだけど、土堂小学校のことはよく新聞に載るが、長江小学校と久保小学校の保護者会、保護者への説明会に関しての情報が全然ない。各2小学校の保護者の方々の反応はどういう形になっているか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>土堂は土曜日ということで、マスコミ報道等もされていたというふうに思う。おおむね本当に、私たちの提案について理解を得られなかったという認識でいる。様々な意見、その中でも一番多く多かったの</p>

	<p>は、やはり現地での耐震化というのが多かったというふうに思う。土堂小学校存続してほしいということになる。それから、火曜日の久保小学校では、反対意見というのにはなかった。通学に関することであるとか、学校の教育内容についてどうなっていくのかというような、施設面のこととか、そういったことが多かったと思う。参加されていた方は30数名ではなかったかと思う。それから、昨日の山波小学校だが、反対意見はなかった。その中で、やはり通学のこと。それから、山波小学校は、小学校はそのまま残るので、中学校に上がるときに、教育内容について、均一なものとか、中学校に上がるときの通学方法とかそういったものが多かったというふうに思う。参加者の方は、10数名だったと思う。ですから、今言わせていただいたように地域によって、やはり学校がどういう形態になるのかで意見も異なると思うし、地域の皆様の中でも来られていた方はそういうふうなご意見をいただいたけれども、来られてない方のご意見というのものもあるだろうし、またそういった部分も、できるだけ耳を傾けながら、進めてまいりたいと思っている。</p>
住民5	<p>ありがとうございます。個人的には、やはりスケールメリットを生かした教育というのは、すごく魅力的があると思う。また我々、多人数の小学校・中学校時代を過ごした人間としては、ちょっと最近はすごく寂しい感じがしているので、そういう部分では大筋、いい方向に進んでいるような気はする。先ほど以来、ずっと言われているような細かいことをしっかり詰めていって、皆さんがある程度、納得されるようなところを作っていたきたいと思うので、よろしくお願いします。</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>ほかに質問はございますでしょうか。</p>
住民1	<p>引っ越しは、一度にできないのか。結局、4年間がかかりますよね。短縮はできないのか。少しでも、やはり子供たちの負担は無いようにしたいが。</p>
石川庶務課管理係長	<p>我々も工事期間は短い方がいいと、これはもう共通認識である。ただし、令和7年が来てから工事を進めるにあたって、同時にそれは工事だけしようと思えば、物理的にできるが、何か弊害があるのか、体育館を壊さないといけないということになります。そうしますとやはり令和7年、8年が、体育館がない状態っていうのはこれは学校としては運用できないので、やむなく、まずは校舎を建て、そのあと体育館を壊し</p>

住民5	<p>プールを作るという工期となっている。</p> <p>すいません、体育館はいつまで使えるでしょう。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>中学校の体育館は、令和8年度まで使えるし、令和9年度はもう新校舎の方に体育館ができていますので、今度は新しい体育館を使っただくということで、体育館が使用できないような期間はない。どちらかの体育館が使える。</p>
住民2	<p>長江中学校校舎が避難所になっているということで間違いないか。ご存じない。今見ると2年間、校舎はなくなるわけでしょう。それと、長江住民が、もし災害のときに、どこへ避難したらいいかということも、総務課の安全係としっかり相談してやっというてもらわないと。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>ちょっと確認しながらお答えしようと思うが、長江中学校の校舎がなくなる時期はない。長江中学校の校舎は、ずっと継続している。体育館の入れ替わりが当然あるので、体育館が令和8年度までは今のタイプ、そして令和9年度からは新校舎の中の体育館ということで、避難機能は確保していこうと考えている。</p>
住民2	<p>今、体育館は避難所として使わないところが増えている。校舎を使うというところが増えているので、校舎はずっと残ると。それは利用できるか。</p>
石川庶務課管理 係長	<p>はいそうです。</p>
教育長	<p>ちょっと補足をさせていただくと、先ほど申し上げたように、グラウンド部分に小学校が最終的にくる。中学校の建物は耐震化がすでにできている建物なので、これを活用する方法をどうするかは、皆さんとの協議による。例えば、グラウンドのここの部分だって、この道路の関係からいったら、ここの駐車場として、この辺を活用しなくちゃいけない可能性だってないことはない。そういうことは我々としても案的なものは持っているが、皆様のご意見も聞く前に、どうのこうのということにはならないので、少なからず、地域のそういったコミュニティー施設として、学校活用する方法もあるだろうし、いきいきサロンだって古い施設、昔の長江北の保育所を活用していただいているようなことも</p>

住民 2	<p>あつたりするので、いろんな地域には要望も含めてあるのだろうというふうに思う。そういったことを、汲み取りながら、東の方の施設をどういうふうにするか、今後皆さん方と話をすることで方向性も出していくということだ。</p> <p>避難所は、住民の命だから、活用して欲しい。よろしく。</p>
住民 6	<p>確認したいが、今体育館は、中学校の校舎から離れてグラウンドの中にあるので独立した格好になっている。我々地域から言うと、大きな公民館みたいな感じでいろんな行事で使わせてもらっている。敬老会にしろ。それから町民運動会とかいろんなことをやる場合でも使っていた。今度それが校舎の中に入るということになるのと、もう学校行事しか使えませんよということになるのか。それともやっぱり、体育館は地域の方に開放してもらえるのか。そこをちょっと確認しておきたい。</p>
石川庶務課管理係長	<p>はい。運用は今までと一緒。当然、新しい体育館については地域の方への利用もしていただく。今、いろんなスポーツ団体が使われているのを地域開放と我々は呼んでいるが、このことについては継続する。当然出入口については、日比崎小学校とか同じような作りのものもあるが、学校の中だけではなく、体育館に直接入れるような出入口も作って、その地域の方やその他団体の方が使えるようにさせていただくというふうに考えている。よろしくお願いします。</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>他に質問はございますでしょうか。</p> <p>（質問なし）</p> <p>それでは、質疑応答を終わらせていただきたいと思います。最後に、小柳学校教育部長から閉会の挨拶を行います。</p>
小柳学校教育部長	<p>それでは失礼いたします。本日は、長江小学校区の地域説明会として、長江・久保中学校校区の学校再編案について、説明をさせていただきました。そののち皆様から質問や意見をいただきました。</p> <p>出席されている皆様からは、小中一貫教育校について、もう少し詳しく教えて欲しいでありますとか、今の長江小学校の耐震化の問題、それから、新校舎の今後、どういうふうにしていくのかということ、通学路の安全確保について、地域をどのように捉えていくのか。また学校選択</p>

制では学区の見直し等、多岐にわたって、ご意見等を伺っていただきました。

本日先ほど申しましたけれども、説明会は4地域全て1回、まわらせていただきました。これ4地域でいただいた意見等をまとめ、今後はまずは保護者との意見交換会を再開する中で、今後の地域説明会のあり方等についても検討させていただきたいと思います。

教育委員会としましては、小中一貫教育構想。尾道の学校教育をリードしていくことができる学校子供たちが切磋琢磨しながら、生き生きと学ぶことができる学校、子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた土台作りのできる学校、未来を担う子供たちのために強い思いを持って実現させたいと思っております。

本日はお忙しい中、説明会にお集まりいただきありがとうございますございました。

～19：50